

～コロナ禍においても学生にとって内容・環境共に身近なラジオを目指して～

団体名●HACK／代表者名●見方みのり(経済学部経済学科4年)

はじめに

HACKは学生自身が学生へ向けて自らの声で発信できる場所を作りたいと思い設立しました。また、学生が話す等身大なトークを聴くことで、本学学生がキャンパスライフをより良く過ごせるようなきっかけを生み出せるように心掛けています。

今年度の目的はより多くの学生にHACKの存在を知っていただくために、より充実した放送内容に仕上げ興味をもってもらうことです。目標は、どの学部でも聴いてもらえるような環境整備を行うことです。具体的には、SeiryWeeklyとの連携やYouTube等を用いたWeb配信に力を入れることを考えました。また、他団体との連携を強化することで放送内容の充実を図りました。

主な活動内容

Instagramで毎週3回の投稿

大学生活のあるあるを話す「○○あるある」、メンバーそれぞれがコーナーを考え話す「個人コーナー」、HACKの活動紹介を投稿する回に分け週3回投稿を行いました。Instagramに投稿することで、コロナ禍や学部の関係で本館に行く機会が少ない学生にも聴いてもらえる機会をつくりました。また、週に何度も投稿することで、HACKの投稿を見たり聴いたりすることが日常になるように工夫しました。配信内容に関しては、学生生活や趣味にまつわる話など多岐に渡る情報を提供することで、多くの学生に楽しく聴いてもらえるようにしました。

ビブリオバトル視聴推進を促す学内放送・学内メール配信

つながる図書館プロジェクトの方と収録を行い、その音源を学内放送・学内メールにて配信を行いました。ビブリオバトルのルールをアレンジし、本学おすすめの学食メニューについてプレゼンテーションを実施し、学食というお題を仮に設けることで、ビブリオバトルのルールを気軽に知ってもらえる機会を提供しました。また、学食を利用したくなるよ

うなお題にすることで、本学の施設活用の促進にもつなげるように努めました。Instagram配信同様、YouTubeを活用することで学生がコロナ禍でもラジオが聴きやすいように心掛けました。

成果、結果の考察

- ・InstagramやYouTubeを活用し、多くの学生に聞いてもらえる環境の整備を進められた
- ・学内掲示ポスターでのHACKの周知ができた
- ・原稿や音源をInstagramに投稿する前に、互いに確認しあうことで聞き手を意識した話し方ができた
- ・コロナ禍での活動の難しさを実感(学内放送やミーティング)

今後の課題

- ・次年度に向けてのメンバーの確保
- ・他団体との連携強化で放送内容の充実を目指す
- ・SNSのフォロワー・視聴回数の増加
- ・マイク機材の不具合を解決する

今後の展望・まとめ

学生が欲しいと思う学内の情報が、コロナ禍ということもあり、届けにくくなっていると感じました。次年度は、学内放送に力を入れていきたいです。具体的には、ゼミナール選考の際に役立つ情報を発信していきたいと考えています。ゼミの活動や、所属していた先輩がどのような卒業論文を執筆していたかなどを念入りに取材したいです。ゼミの指導教員や3・4年生にも話を伺うことでリアルな声を届けたいと考えています。



収録をしている様子